

令和6年度 学校評価の目標

本年度の 重点目標	「自立や社会参加に向け必要な力を身に付け伸ばす」 1 新学習指導要領の改訂の趣旨に応じた各授業・自立活動の改善 2 ICT機器の効果的な活用と教職員の指導力向上 3 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進 4 地域及び関係諸機関との連携及び社会に開かれた教育課程の推進 5 知肢併設に向けた年間行事や教育課程等、教育環境の整備		
担 当	重点目標	具体的方策	留意事項
小 学 部	対話的・体験的な授業を通して社会性を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援計画から実態を把握し、必要な力を主体的に身に付けられる指導計画を策定して授業を展開する。 ・地域資源を生かした体験的な学習やICT機器を有効活用した学習などから社会生活力の定着を図る。 ・表現力を身に付け、周りの人との関わりを通してコミュニケーション力や社会性の拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画のもとに、児童が自ら活躍できる授業を展開する。 ・体験的な学習やICT機器の活用を通して、社会生活に必要な基礎的な生活力を身に付けられる活動内容を取り入れる。 ・対話やふれあいを通して、児童自らの意思表出を促す。
中 学 部	豊かな表現力と判断力の獲得を目指した授業を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりのある学習活動を計画的に実施知る。 ・各学年のテーマを踏まえ、系統的かつ体験的な活動を展開する。 ・生徒や保護者の思いに寄り添い、安心して学習できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の障害特性に配慮し、地域とのつながりを意識した指導・支援を心掛ける。 ・職員間で適切に情報交換、情報共有を行う。
高 等 部	卒業後の自立や社会参加を見据え、これからの社会で必要となる資質や能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルとアナログを効果的に組み合わせ、学びの質の向上を目指す。また、DXハイスクール事業化を見据え、適切な環境を整えると共に協力協働体制を構築する。 ・学校生活や他校との交流において、調和的発達と豊かな心の育成を目指す。 ・外部機関と連携協働しながら、教育目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や習熟度に配慮し、ICT機器やアプリケーション、手作り教材等を効果的に使用することで理解を深める。勉強会を開催するなど、職員のDXハイスクール事業の理解を深めICT機器の操作能力の向上を図る。 ・生徒同士の交流や協力場面を設定し、自己肯定感、感謝の心、寛容の精神などを高める教育活動を実践する。 ・地域や関係機関等と積極的に関わりをもち、情報の共有、共通認識の下、教育目標実現に向けて協働する。
訪問教育	人との関わりを大切に授業を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問教育の活動を通して、児童生徒同士や取り巻く人と関わる機会をもつ。 ・授業の中で意思の表出を促すような内容を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や「訪問グループトーク」の取組、動画や写真のやり取りなどの活動を通して、多くの交流の機会を設ける。 ・児童生徒が人との関わりを楽しみ、気持ちを伝える動きや表現を引き出す。
総 務	知肢併設を見据えた業務内容の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・儀式的行事の目的・目標を確認し、他分掌と連携・調整しながら、計画立案、精選を行う。 ・学校備品を整理し、管理する。 ・文書業務の精選と整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Teams等を活用しながら、職員間で情報共有を行いながら業務を効率よく進められるようにする。
教 務	学習指導要領の教科の視点を意識した目標・内容の設定と適切な学習評価の実施を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・知肢併設を視野に入れて、授業づくりに生かされる各計画等の様式の検討を進める。 ・教科の3観点による授業の目標・内容の設定の仕方や学習評価の方法をまとめ、校内周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や部会を活用し、各計画等の作成目的や活用方法を発信し、様式検討を進める。 ・年間指導計画、個別の指導計画、学習指導案等の作成において、教科の3観点による授業の目標・内容を適切に設定することで、授業実践や評価につなげられるようにする。 ・研修部と連携し、夏季休業中の研修等の活用を検討する。
研 修	「学習者主体」の研究と研修の充実及び情報共有を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修履歴の記録を用いた主体的研究や研修を実施することにより、「授業づくり」や「授業改善」に対する教員間の対話を促進し、教員の力量向上を図る。 ・研修の目的や内容に応じて、集合や分散、対面、オンラインなどを柔軟に組み合わせることで実施できる体制を整えながら、情報共有に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に対する課題意識共有のために効果的な研究や研修を計画・実施する。 ・全校研修等で動画視聴を用いた研修を取り入れたり、積極的に情報発信したりする。
図 書	児童生徒が本を身近に感じられる図書室環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の行事や啓蒙活動を通し、図書室や読書への興味・関心を広げる。 ・配架の仕方を工夫し、読書意欲を高められる環境づくりに努める。 ・児童生徒の興味・関心、実態に合わせた図書の選定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間への様々な関わり方を促したり、季節やテーマに沿った案内・展示を行ったりする。 ・見やすく、手に取りやすいように本の配架の工夫をする。 ・本のアンケートを随時行い、児童生徒の実態に合った本や話題の本を購入する。

教育情報	正しく安全にICT機器を活用できる	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された新しいICT機器に対して、分かりやすい説明と配備を行う。 ・情報資産を正しく管理、整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の入れ替えに際しては、完了時期があることから、できる限り早めに情報を提供できるようにする。 ・各部・各分掌主任を中心に「情報の分類表」が作成できるように、フォルダごとの担当者を早めに提示し、作成・提出期日を明確にして確実に実施するように促す。
生徒指導	危機管理体制の確立を図り、安全・安心な学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の充実を図る。 ・防災・防犯の意識向上を図り、素早く行動できるよう初動体制を整える。 ・引渡し訓練を全員参加とし、保護者の防災への意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練や全校放送などを活用して、防災について児童生徒が効果的に学べるようにする。 ・各教科や領域で防災教育の取組ができるよう、具体的事例を示し、取組を促す。 ・防災・防犯の動きが視覚的に分かりやすいよう、目印や標識を設置する。 ・引渡し訓練への参加について保護者への周知を図る。
進路指導	キャリア教育の充実を図るとともに、知的部門開設に向け、進路情報の収集を踏まえた行事等の計画・立案等を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりや掲示物等を通して情報発信をする。 ・卒業後の見通しをもてるよう、上級学部及び進路先となる企業・事業所の見学、講話、体験等を設定する。 ・関係機関（企業、障害福祉サービス事業所、相談支援員、ハローワーク、市町の福祉課等）との連携を図る。 ・一宮東特支など他校の情報を参考に進路関係の話し合いをもち、知肢併設検討委員会に提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からの情報発信を通し、障害福祉サービス事業所の名称と内容、産業現場等における実習の進め方など、進路先を決定するまでの流れについての理解を深められるようにする。 ・保護者が各学年での進路指導の流れを理解できる進路説明会を計画する。 ・児童生徒自身が将来の姿をイメージできるような活動を提案する。
保健	職員間の連携をもとに、安全な教育環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と看護師の情報交換を密にして、医療的ケアが必要な児童生徒の体調把握に努める。医療的ケア、緊急時の対応について、共通理解をもって対応できるようにする。 ・ヒヤリハット事例の集約と分析に努め、事例を全校研修や職員会議等で紹介して、危機管理意識の高揚、持続化を図る。 ・感染症予防に関わるのガイドラインを作成や情報の周知を通して、学校職員が連携して教育環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と看護師が協力して、医療的ケアが必要な児童生徒の支援をする。 ・危機管理意識の高揚を図るための効果的な働きかけをする。 ・学校職員が協力して、児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境を整える。
教育支援	校内支援や地域支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な児童生徒に、保護者、外部機関、関係職員との連携を推進する支援会議を行い、支援の在り方をチームで検討する。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーをより有効に活用する方法を検討する。 ・地域の学校が活用しやすい地域支援の在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議等を通して関係者が情報を共有し、より良い支援について考えられるようにする。 ・専門家と連携して、児童生徒の心理面の支援、登校状況の改善などに役立てる。 ・地域の学校とのやりとりを通して、相談しやすい仕組みを整える。
自立活動	自立活動の実践に関する情報や研修会を提案し、より良い指導の改善につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研修や夏季研修の充実を図るとともに、研修内容を映像記録として残し、後で共有できるようにする。 ・中部大学自立活動相談など、専門機関と連携について、職員により一層の周知を図り、日々の指導における課題解決に寄与する。 ・グループウェアで自立活動に関する情報全般を互知識として発信し、支援についての知識を積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修やグループウェアで必要な情報を提供し、指導改善や支援方法につなげる。 ・自立活動相談による専門家の助言を学校生活の中に生かし、児童生徒の成長へとつなげる。
その他	知肢併設に向けて教育環境等の整備を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・知肢併設に向けた検討委員会を設置し、検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一宮東特支とやり取りをしながら、教育課程、行事等の検討、分掌業務内容の確認、見直しを行う。 ・初年度備品の選定、制服やスクールバスコースの検討等を計画的に進める。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領の改訂の趣旨に応じた授業改善とICT機器の効果的な活用及びデジタルとアナログを融合した指導力の向上 2 防災意識の向上と危機対応力の強化を踏まえた健康で安全で安心な学校づくりの実践 3 切れ目のない継続した支援の充実のための地域及び関係諸機関との連携 4 いじめ防止に関する会議の定期的開催及び児童生徒の丁寧な実態把握によるいじめの未然防止 5 教職員間の連携と協働による教育活動の充実と業務のスリム化による教職員の多忙化解消 	